

県西部でクリケット普及へ

県西部でクリケットを普及させようと、日本クリケット協会（栃木県佐野市）と、スポーツクラブの運営などを手がける一般社団法人「Grow Up Academy」（浜松市中央区）が18日、浜松市役所でクリケット競技を通したまちづくりに関する協定を結んだ。両者はクリケットの大会や体験会の開催、競技会場の提供などで協力していく。

（服部剛士）

中央区の社団法人 日本協会と協定

市内インド出身者増加も後押し



クリケットの道具を手にする（右から）宮地代表や、クマールさんら＝浜松市役所で

クリケットはバットとボールを使った野球に似た競技で、英国やインドなどで人気がある。日本の競技人口は5600人ほどだが、特にインドでは1億2千万人ほどいるとされ、国民的スポーツとして親しまれている。

現在、678人のインド出身者が住み、年々増えている浜松市。クリケット普及の可能性があると考えた協会が、同法人に持ちかけた。

協定の締結式には、市内でインド料理店を営むヒネイ・クマールさんも出席。クマールさんによると、市ではインド人やネパール人など、南アジア出身の外国人ら約50人が週末に公園などでクリケットを楽しんでいる。「私たちはクリケットが大好き。（外国人の）定住促進のためにも、クリケットをもっと一般的なスポーツにしたい」と要望した。

協会の宮地直樹代表は「浜松を東海地方のクリケット文化の発信地にした」と、同法人の島沢翔哉代表理事は「クリケットチームを作り、活動していきたい」と期待を口にした。